

V 特 用 作 物

茶（県南）

1 施肥基準設定の基礎

成木茶園10a当たり1,600kgの若芽摘みを主体とした生葉収穫目標を基準とする。

2 10a当たりの施肥量（kg）

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
秋肥（8月下旬～9月上旬）	15	15	8
春肥（3月上旬）	16	10	12
春肥（追肥）（4月上旬）	8	0	0
夏肥1茶直後（5月下旬）	13	0	12
夏肥2茶直後（7月上旬～中旬）	8	0	0
計	60	25	32

3 施肥方法及び留意事項

- (1) 9月下旬～10月上旬に500～1,000kgの敷草または稲わらなどでマルチをする。
ただし、凍霜害のおそれのある茶園では株元にマルチをする。畦間には一番茶摘採後に行う。
- (2) 茶の好適pH（H₂O）は4.5～5.0で、土壌分析の結果に応じて8月中下旬に苦土石灰等を施用して酸度矯正する。
- (3) 肥料の施用は成園では畦間全面施用とし、幼木園では茶樹の雨落部に2～3回分肥する。

4 （参考）幼木園の年次別施肥例（10a当たり施肥量kg）

年次	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
植付当年	16	6	8
2	32	12	16
3	48	18	24
4	60	24	32
5（成園）	60	25	32

茶（県北）

1 施肥基準設定の基礎

成木茶園10a当たり1,400kgの若芽摘みを主体とした生葉収穫目標を基準とする。

2 10a当たりの施肥量（kg）

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
秋肥（9月上旬）	15	15	8
春肥（3月上旬～中旬）	16	10	12
春肥（追肥）（4月上旬）	8	0	0
夏肥（5月中下旬）	11	0	9
計	50	25	32

3 施肥方法及び留意事項

- (1) 9月下旬～10月上旬に500～1,000kgの敷草または稲わらなどでマルチをする。
ただし、凍霜害のおそれのある茶園では株元にマルチをする。畦間には一番茶摘採後に行う。
- (2) 茶の好適pH（H₂O）は4.5～5.0で、土壌分析の結果に応じて8月中下旬に苦土石灰等を施用して酸度矯正する。
- (3) 肥料の施用は成園では畦間全面施用とし、幼木園では茶樹の雨落部に2～3回分肥する。

4 幼木園の年次別施肥例（10a当たり施肥量kg）

年次	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
植付当年	12	5	6
2	24	10	13
3	36	15	19
4	48	20	26
5（成園）	50	25	32

藍

1 施肥基準設定の基礎

3月上旬は種，4月下旬～5月上旬定植で，風乾葉収量10a当たり300kgの収穫目標の基準とする。

2 10a当たりの施肥量 (kg)

区 分	施 用 時 期	施肥量(kg)		
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	定 植 前	1 0	1 0	1 0
追 肥	定 植 3 0 日 後	1 5	1 5	1 5
	1 番 刈 1 0 日 前	1 0	—	—
	1 番 刈 7 日 後	1 0	1 0	1 0
	2 番 刈 1 0 日 前	1 0	—	—
計		5 5	3 5	3 5

3 施肥方法及び留意事項

- (1) 堆肥2,000kgを定植1ヶ月前までに施用する。
- (2) 定植10日前までに苦土石灰100～200kg，基肥を施用する。
- (3) 一般的に育苗床への基肥は不要である。痩せ地の場合は3要素を少量施用する。